

病院横断的活動とリハビリテーション

Hospital-wide activities of rehabilitation

医療機関におけるリハビリテーション職種の役割は、単に、個々の患者に理学療法、作業療法、言語聴覚療法、摂食機能療法などを提供するだけではありません。病院横断的な多職種連携チームに参画し、病院の診療の質の向上に寄与することが期待されています。病院横断的活動には診療報酬収載の始まったものもあります。本特集では、さまざまな病院横断的チームの一員として先駆的に活動されている方々に、その実践のポイント、今後の展望をご執筆いただきました。

急性期病院におけるリハビリテーション職種の役割 笠井史人氏ら…………… 7

疾患別リハビリテーションが登場して12年、新たな潮流である病院横断的活動を見直して理想的なリハビリテーション診療を模索する時期が到来した。チーム医療の推進は、さまざまな分野で行われ、診療報酬への収載も相次いでいる。しかしながら、病院横断的チームの業務と、個々のリハビリテーション業務のバランスも大事であり、柔軟に視野を広げ、患者の利益を高める努力をすることが求められる。

呼吸ケアチーム 鵜澤吉宏氏…………… 13

呼吸ケアチームは2010年の診療報酬改定の際に人工呼吸器の離脱に向けた多職種連携チームとしてスタートし、医療安全の推進と医師の負担軽減、教育なども目的としている。大学病院や救急医療体制を有する急性期病院の9割に導入され、近隣施設との活動や、慢性呼吸管理への介入などに取り組む施設もある。呼吸ケアチームの理学療法士には、対象となる症例へ理学療法を実践できるスキルのほか、多職種と協議できる能力や応答スキルも求められている。

急性期病院における多職種連携による転倒予防 桑垣佳苗氏…………… 17

転倒は入院中の医療事故の2割にのぼり、転倒予防にチームが活動している施設は増加しつつある。著者の施設では、転倒予防ワーキンググループ、早期離床チーム、骨粗鬆症リエゾンサービスチームの3つの多職種チームが転倒予防に関連して活動し、転倒予防ワーキンググループでは特に「排泄行動」と「環境不備」での転倒対策を実践して効果を上げている。理学療法士は転倒リスクの把握、福祉用具の選定と環境整備、ADL設定と介護方法提案、具体的な運動指導の4つの点で貢献できる。

褥瘡対策チーム 前澤史織氏…………… 23

2012年度から、褥瘡対策チームはすべての病院で整備するべき項目となった。著者らの施設では2002年から褥瘡対策チームに理学療法士・作業療法士が入り、2週間に1回、60分の褥瘡回診に参加するほ

か、ポジショニング・シーティングについて指導を行っている。年に1回の講習会では、主にかかわる看護師・介護士のモチベーションの向上のために、内容を工夫し、あえて療法士ではなくリンクナースが主体でのグループワークとしたところ、両者の役割意識が向上した。

栄養・摂食嚥下サポートチーム 森 隆志氏 27

栄養・摂食嚥下にかかわるチームの構成は、各組織でその状況に応じ、栄養サポートチーム（nutrition support team；NST）に含まれているもの、摂食嚥下障害に特化しているもの、などがある。著者の施設では、NSTとは別に、摂食嚥下リハビリテーションセンターがあり、院内全科の嚥下リハビリテーションに対応するとともに、センターの嚥下専門言語聴覚士が、各科のリハビリテーションカンファレンス、NSTのカンファレンスに参加している。対象症例は増加かつ高齢化しつつあり、低栄養・フレイル・サルコペニアなどへの対応が望まれている。

認知症ケアチーム 井口圭一氏 31

新オレンジプランでは身体疾患に対応する一般病院の医療従事者の認知症対応能力向上が強く求められている。2016年度の診療報酬改定で認知症ケア加算が認定され、認知症ケアチームの設置がなされつつある。著者らの病院では入院患者の約3割が対象であり、全病棟の回診を週1回実施し、特に過鎮静・低活動状態症例を見落とさないようにしている。自己表出の乏しい認知症症例では、作業療法士による身体評価・動作分析が重要であり、生活機能や環境に視点を置いた評価・予後予測でチームに貢献できる。

排尿ケアチーム 松永明子氏 37

2016年度の診療報酬改定において排尿自立指導料が新設され、算定している医療機関は2018年3月で500施設となっている。排尿ケアチームの理学療法士・作業療法士に求められているのは、排尿動作の遂行を妨げる身体的要因を分析し、適切な援助方法や機能改善のための方策を、病棟看護師に依頼するのか個別療法として提供する必要があるかを見きわめることである。さらにそれに加えて、下部尿路機能障害の理解を研修会などで深めておくことが望ましい。

書評	脱・しくじりプレゼン—言いたいことを言うとは伝わらない！（評者：飯原弘二） 47
	わたしで最後にして—ナチスの障害者虐殺と優生思想（評者：岩井一正） 73
お知らせ	2019年度成人ボバースアプローチ認定基礎講習会 56